

# 正課外活動、学生表彰及び厚生補導施設について

## 1. サークル活動について

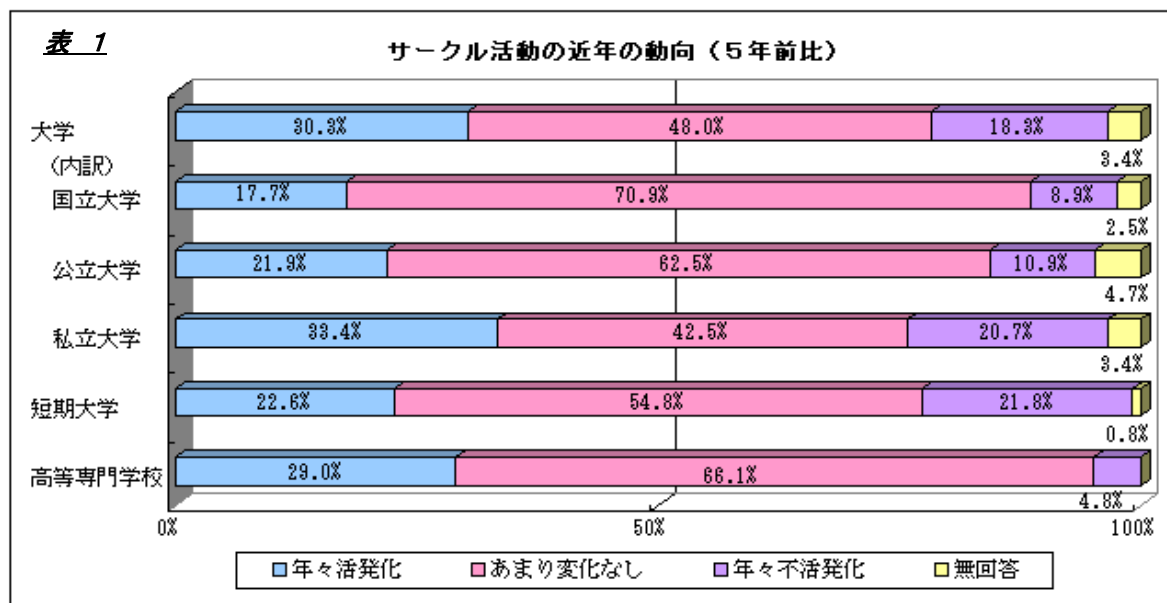
### (1) 5年前と比較した近年の動向について

5年前と比較した、学生のサークル活動の近年の動向について調査したところ、多くの大学等で、5年前と比較しあまり変化がないという回答であった(表1)。ただし、すべてのサークルが等しく活動を続けているとは限らないようである。「新規のサークルと同じだけ廃止される既存サークルがあり、差し引きすると変わらない」との声が複数寄せられた。

サークル活動が不活発になっている大学等からは、その理由として、学生の気質の変化(団体行動の敬遠、積極性の希薄さ)や、カリキュラムの過密化、さらには経済的困窮などからアルバイトをする学生の増加により、サークル活動の優先順位が低くなったこと、サークル活動をする時間的余裕がなくなってきたことなどが挙げられた。

活発化した理由としては、新設校のため徐々に活動体制が確立してきた、学部・学科等を新設した、4年制大学化した、共学化したなど、大学等そのものの変容とそれに伴う学生の変化に関するもののほか、大学等によるサークルの支援体制(活動内容の評価制度、重点・強化サークル指定、金銭的援助など)の充実や施設・設備の改善、大学側と学生側との関係の強化、リーダー養成セミナーの実施、さらには「サークル活動の単位化を実施」(東京農業大学、同短期大学部)といったものが挙げられた。学生の自主的な勧誘活動の強化による部員の増加などにより、サークル活動が活発化したという大学等もあった。

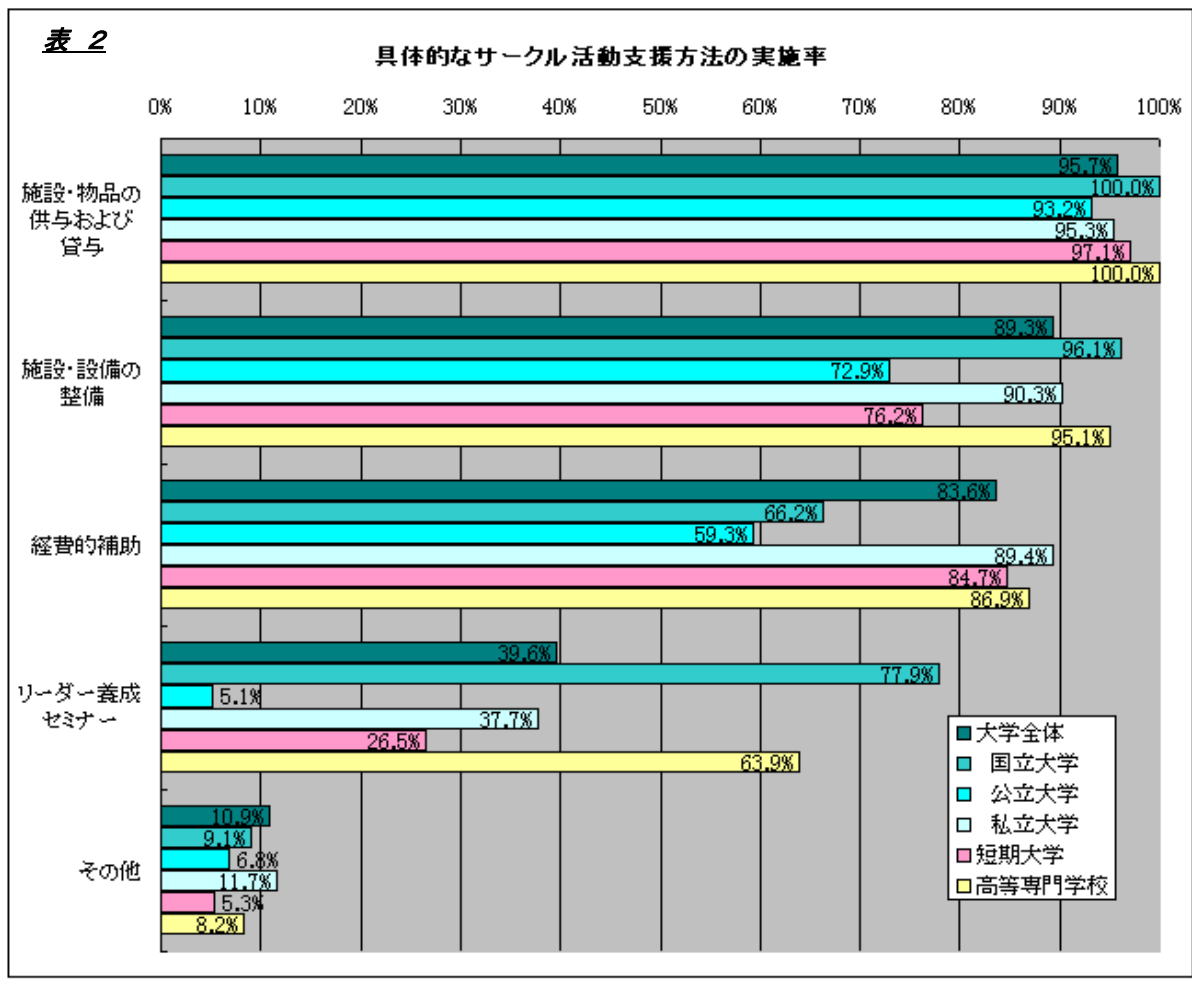
なお全体を通じて、「既存の団体に参加するのではなく、親しい仲間同士でサークルや同好会を設立するケースが多く見受けられる」という指摘がなされた。



### (2) 学生のサークル活動に対する大学(高専)としての支援について

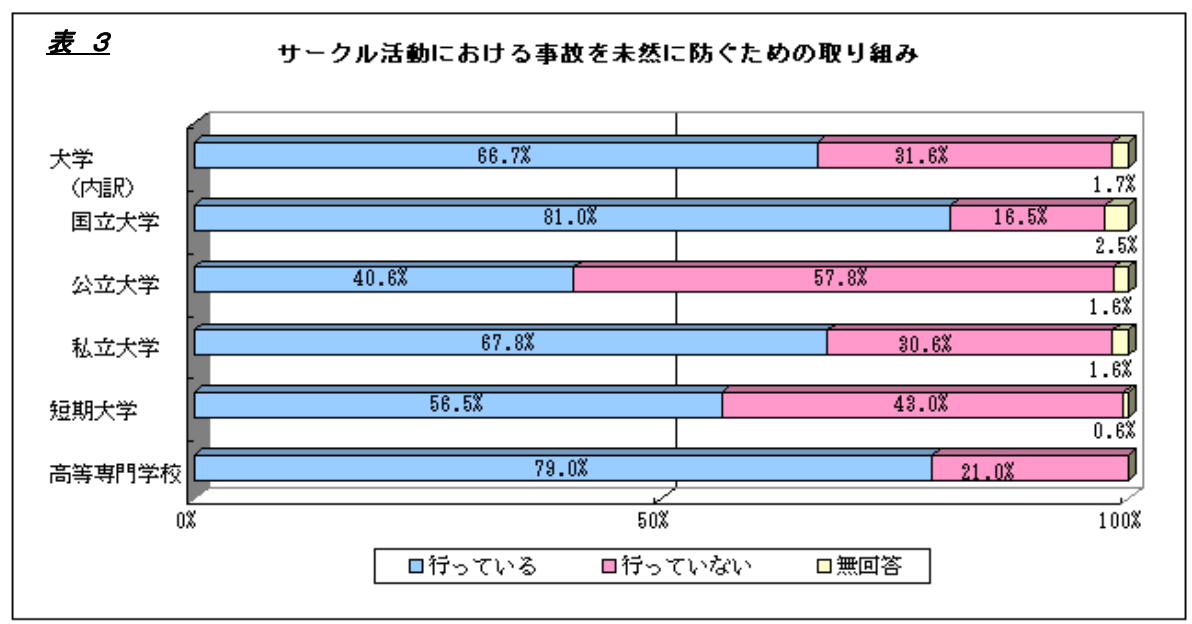
大学・短大・高専とも、9割以上がサークル活動に対して、大学(高専)として何らかの支援を行っていることが分かった。サークル活動に対する支援を「行っている」と答えた大学等のうち、具体的な支援策の実施率については次ページのとおりである(表2)

なお、「その他」のサークル活動支援方法としては、サークル活動の内容に対する表彰・褒賞制度を設けたり、サークル単位で参加できるイベント等を実施したりするといった、サークル活動のインセンティブを与える方法のほか、サークル運営に対する担当教員の助言・指導やサークルに対する定期的ヒアリングなどを行うことにより、適宜アドバイスをしていく方法などが挙げられた。



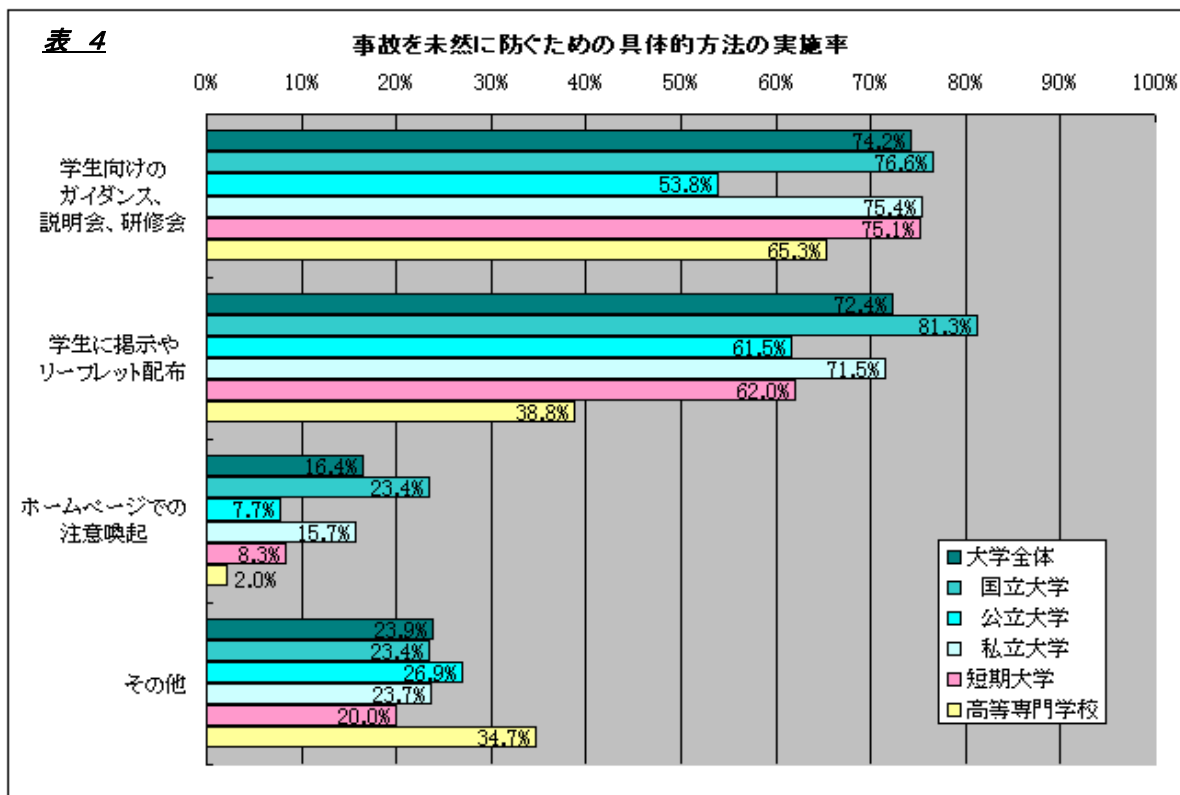
(2) サークル活動における事故を未然に防ぐための取り組みについて

サークル活動における事故を未然に防ぐための取り組みの実施状況については以下のとおりである(表3)。サークル活動に対する支援と比べて、事故防止の取り組みは実施率が低くなっていることが分かる。



何らかの事故防止策を「行っている」と答えた大学等のうち、具体的な方法の実施率については以下のとおりである(表4)。

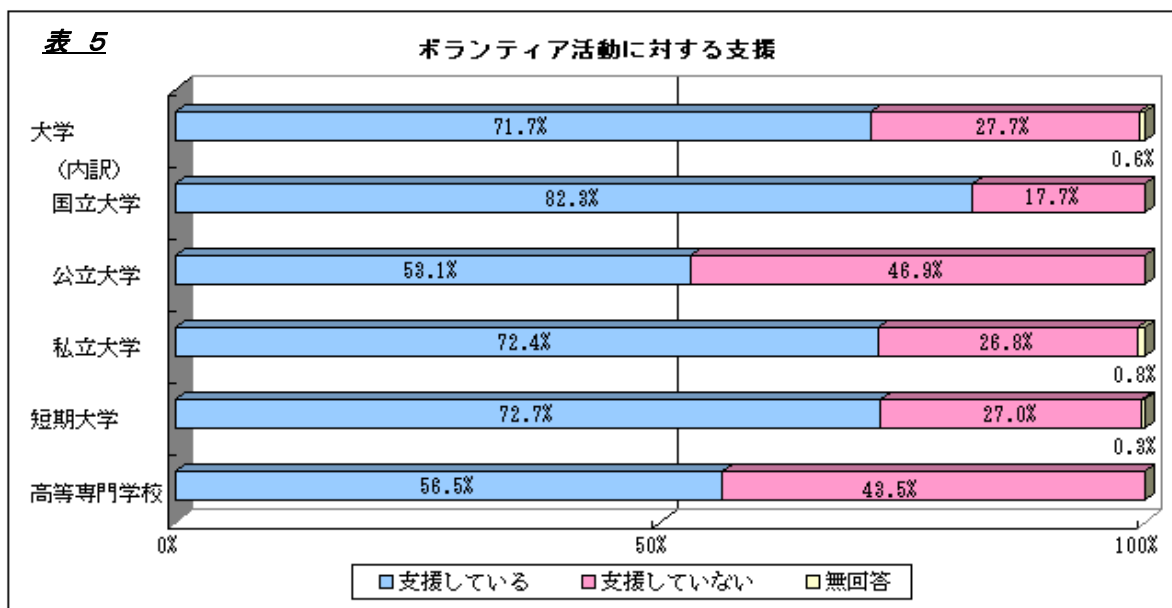
「その他」の防止策として、教員による指導・監督、団体代表者に対する注意喚起といった直接指導・注意や、施設の安全点検、活動内容の確認、健康診断(スポーツ系サークル)などのチェック体制が挙げられた。さらに危機管理マニュアルを制定していると回答した大学もあった。



## 2. ボランティア活動について

### (1) 学生のボランティア活動に対する大学(高専)としての支援について

学生のボランティア活動に対し、大学(高専)としての支援の有無について調査したところ、以下の結果を得た(表5)。

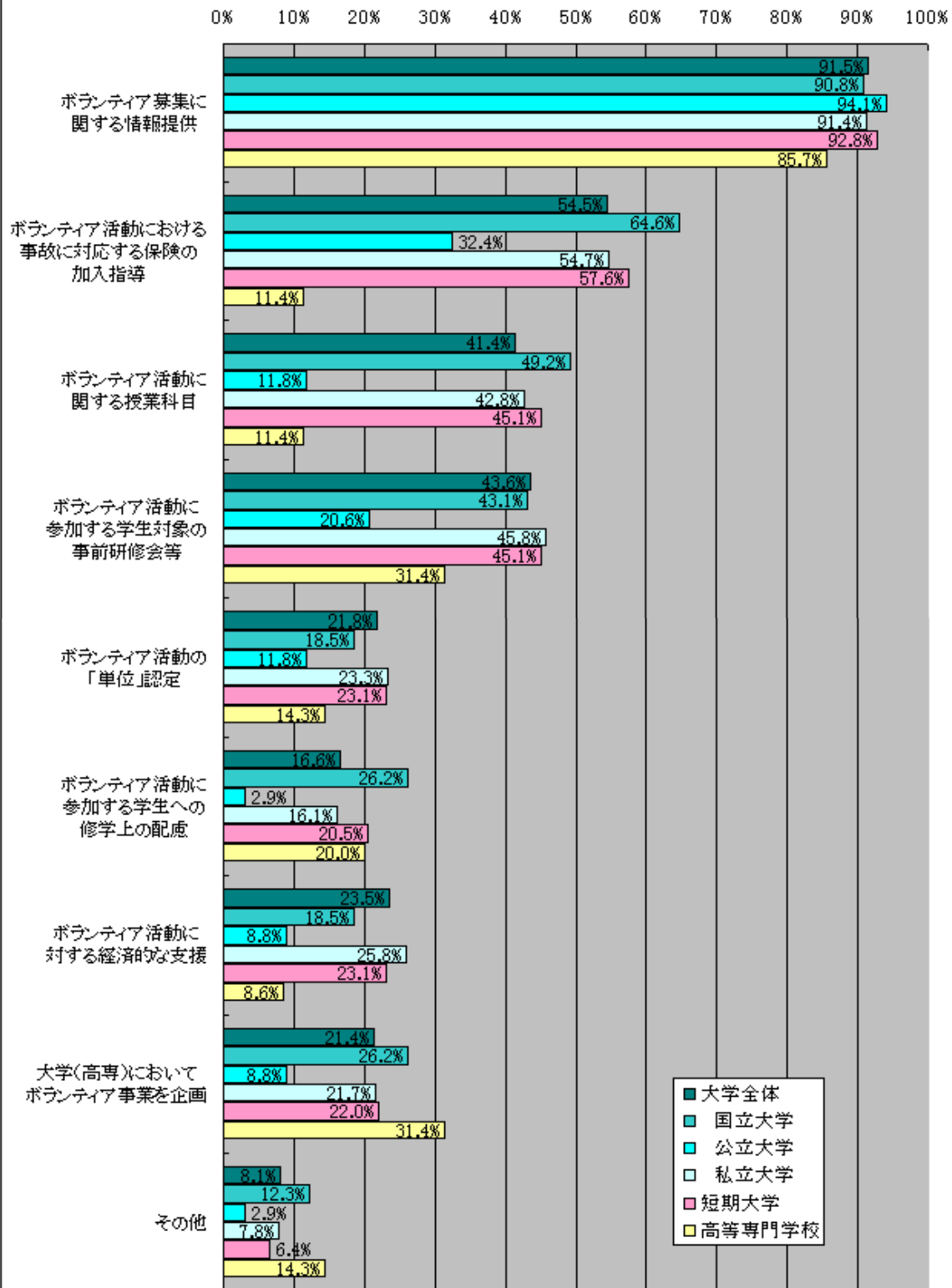


ボランティア活動の支援を「行っている」と答えた大学等のうち、具体的な支援方法の実施率については次のとおりである(表6)。支援の多くがボランティア募集情報の提供であり、活動の単位認定や修学上の配慮、経済的支援といった、実際の活動に伴う支援を行う大学等は少ない。また大学等によるボランティア事業企画の実施率も全体として2割程度にとどまり、外部のボランティア活動への参加を仲介している状況が分かる。

この他の支援方法として、地方自治体との連携や国際的なボランティア団体への加盟といった組織的な支援、ボランティア企画の指導、活動に対する表彰制度といった回答があった(「その他」の詳細な取り組みの内容については、参考資料を参照のこと)。

表 6

具体的なボランティア活動支援方法の実施率



(2) 学生のボランティア活動参加率と教職員の理解・関心を高めるための取り組みについて

約3割程度の大学等が、学生のボランティア活動への参加率を向上させるための取り組みを行っている(表7)。具体的には、

- ・ 専門支援窓口の整備
- ・ 広報活動の強化(ボランティア情報のメール配信、携帯電話から閲覧できるサイトの設置)
- ・ 知識・意識の向上(ボランティアに関する科目の開講、研修会やガイダンスの実施、ボランティア手帳の配付)
- ・ ボランティア活動への参加とその他の利点との関連付け(活動に対する単位付与、ボランティアに係る奨学金・表彰・ポイント付与制度の整備、学生の進路に關係するボランティア先の開拓などキャリア形成との結び付け)

などの取り組みが挙げられた。

学生のボランティア活動参加に対する教職員の理解・関心を高めるための取り組みを行っている大学等は、さらに少ないという結果になった(表8)。

教職員を対象とした具体的な取り組みとしては、教授会・委員会等での周知、学生の活動報告会への参加要請、研修会の実施などに加えて、学生が行うボランティア活動へ参加を呼びかけたり、学生のボランティア活動状況を教員が研究したりしているなどの回答があった。

表7 学生のボランティアへの参加率向上のための取り組み

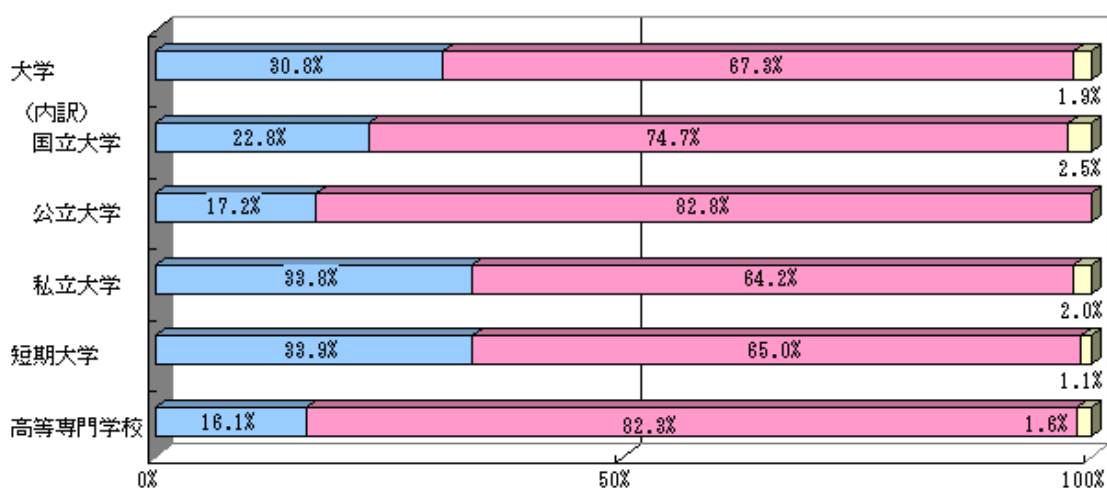
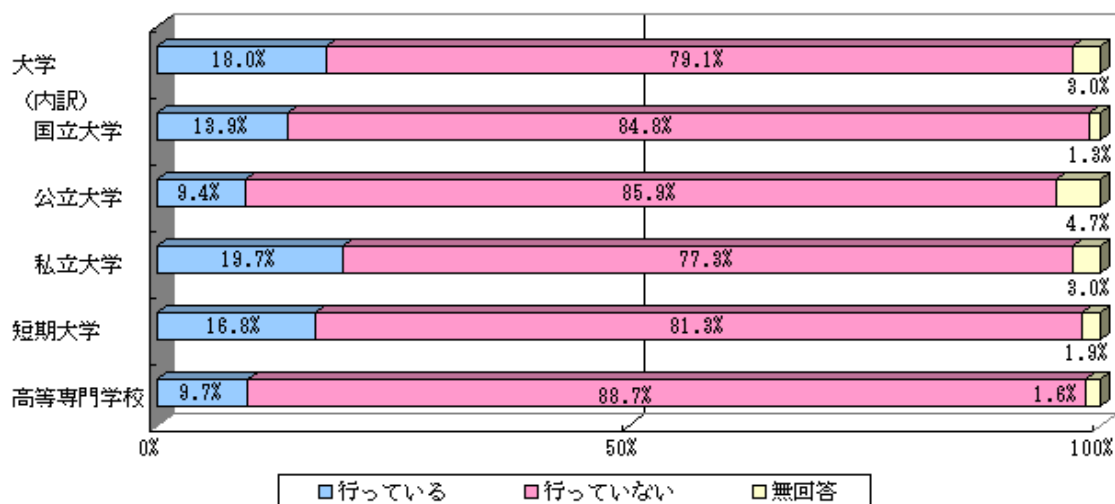


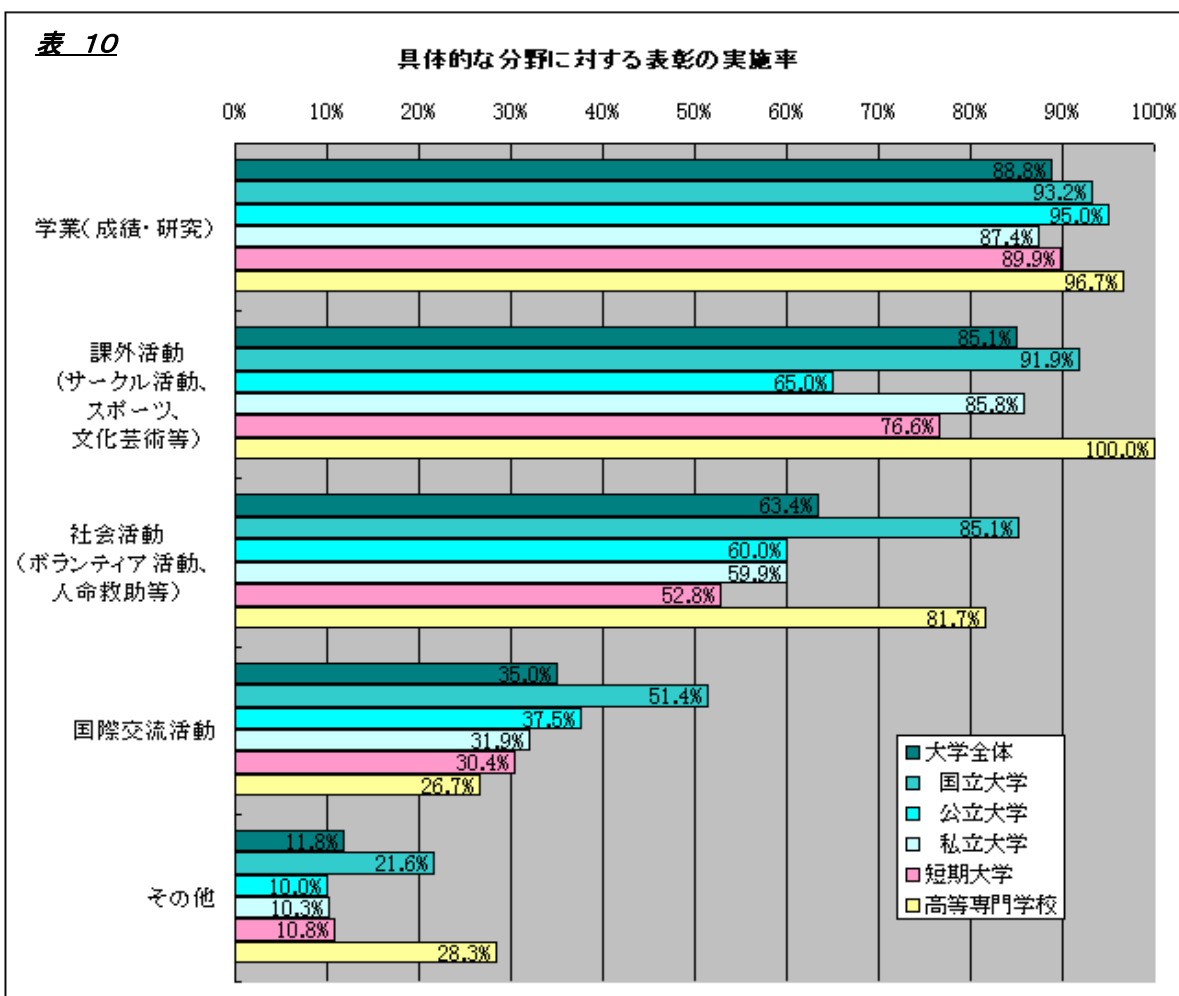
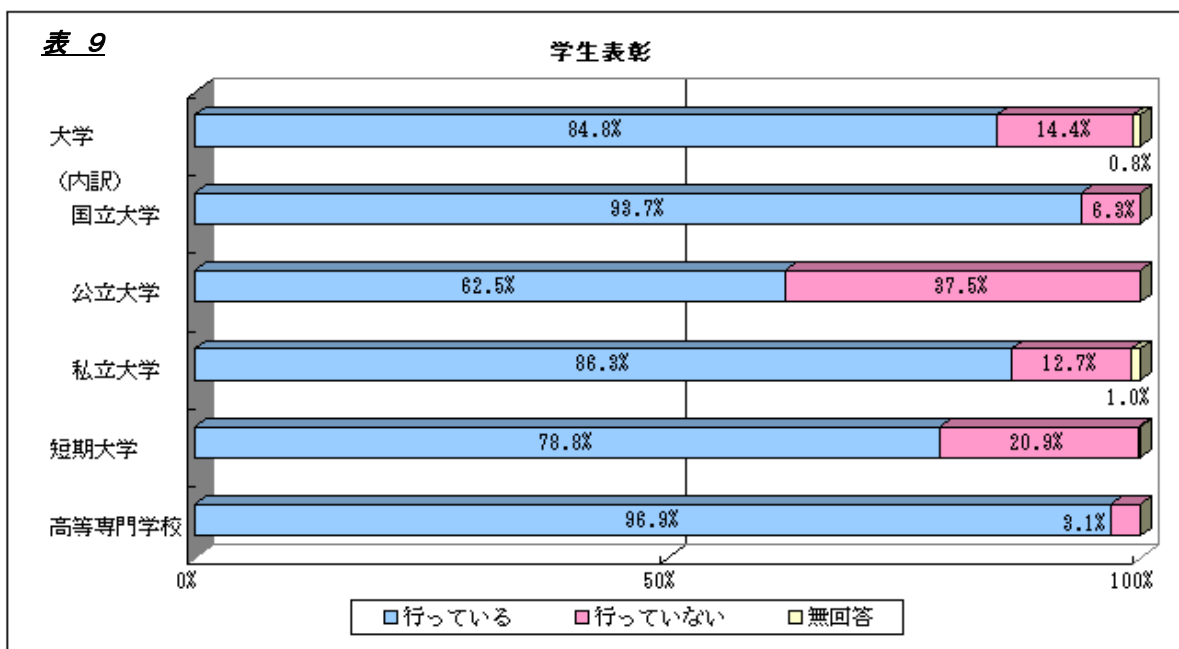
表8 学生のボランティア活動参加に対する教職員の理解・関心を高めるための取り組み



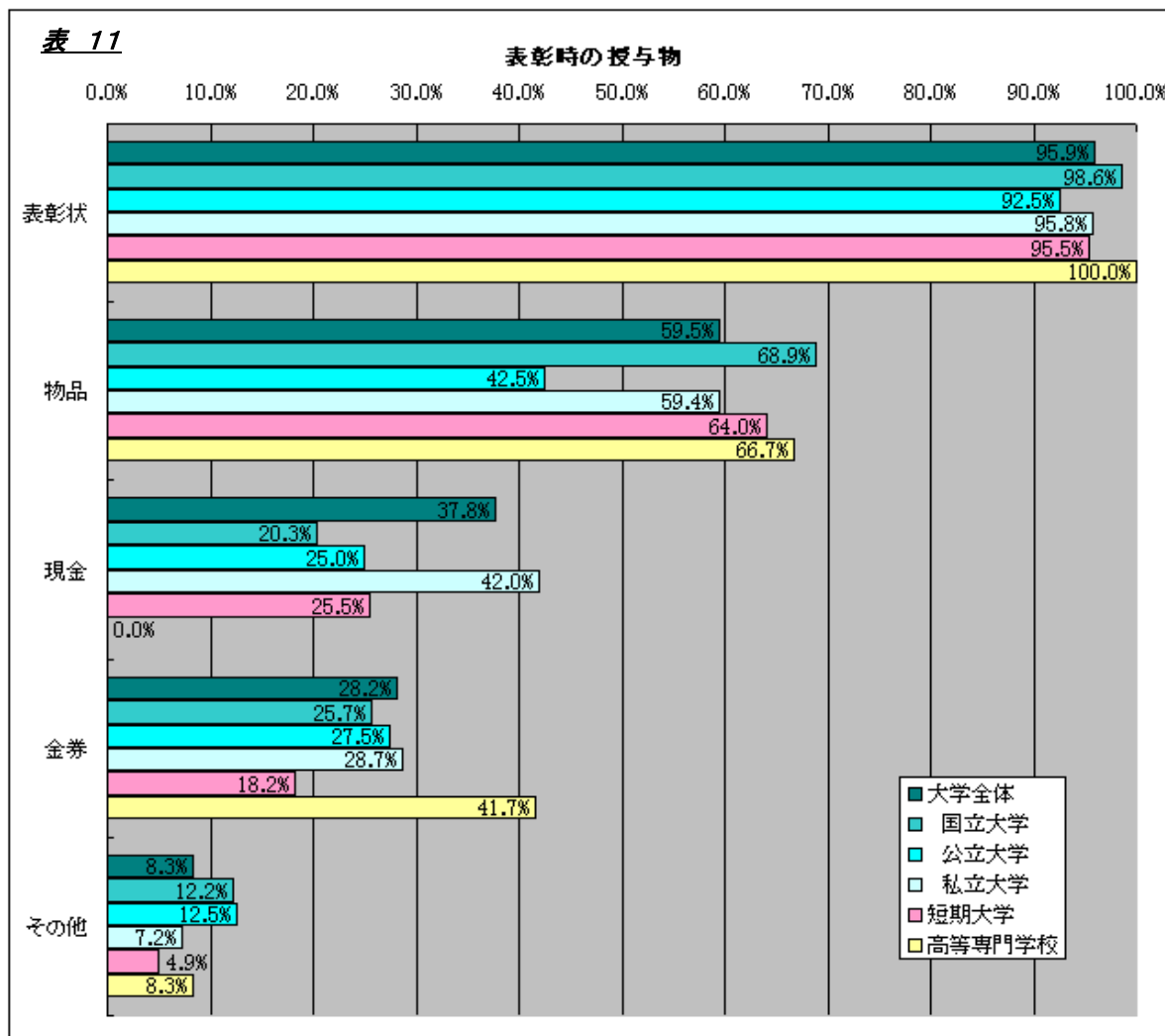
### 3. 学生表彰について

学生表彰については、前述の設問においてサークル活動の活発化やボランティア活動への参加率向上の誘因としても挙げられていたが、実際に半数以上の大学等で、サークル活動やボランティア活動の分野に対する表彰が行われていることが分かった(表9, 10)。

なお、「その他」の表彰分野としては、大学・短大では「資格の取得」が最も多かった。また「大学の名誉を高めた者」や、自治会等の活動・学内行事の運営等における実績、「他者の模範となるような行為」などが続いた。高専では、皆勤や精勤に対する表彰が多く挙げられた。



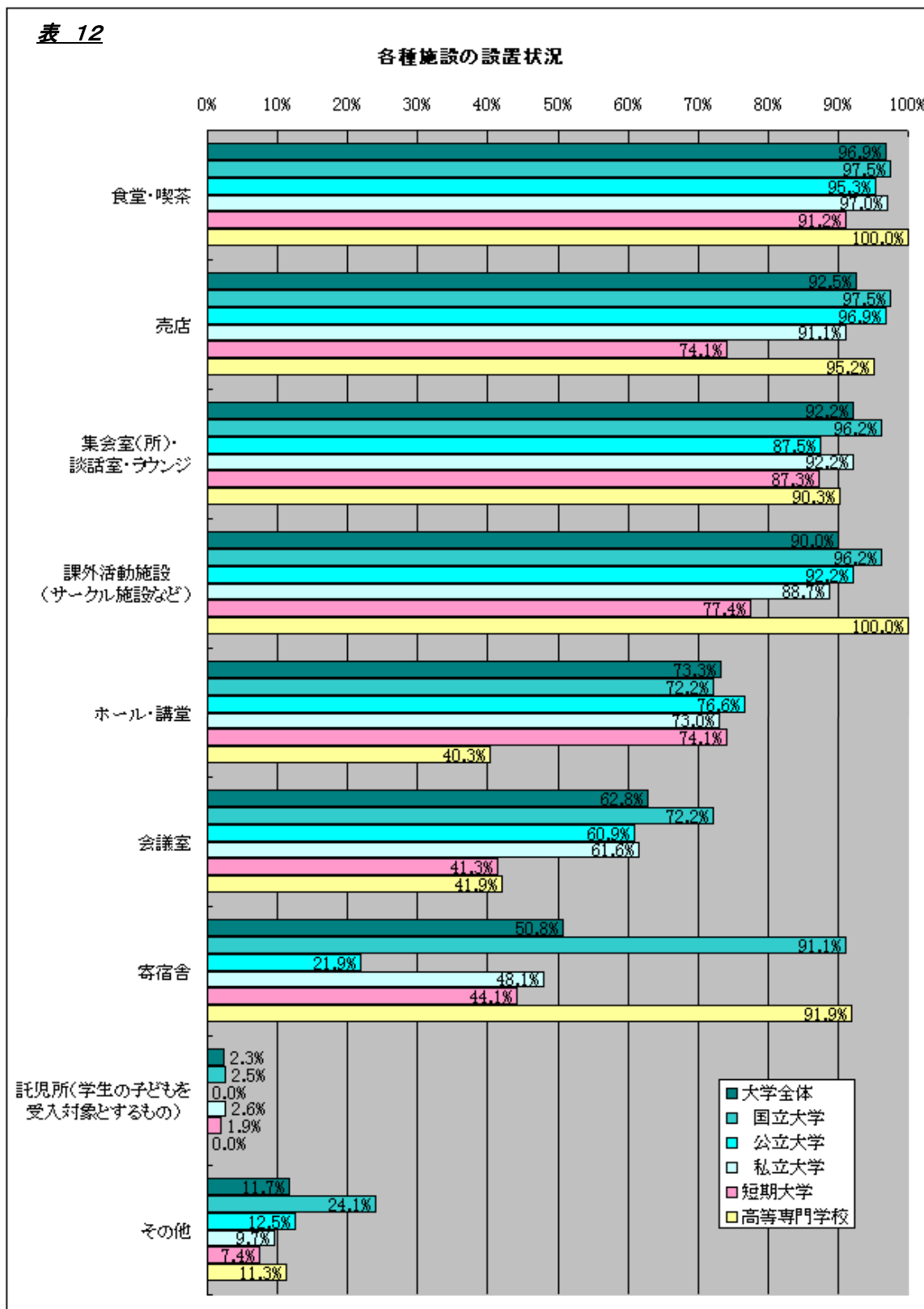
学生表彰を行っている大学等へ表彰時に授与しているものについて尋ねたところ、そのほとんどが表彰状であり、以下物品、現金・金券と続いた。「その他」としては、楯やトロフィー、メダルといった記念品、さらに海外での研修などが挙げられた(表11)。



#### 4. 厚生補導施設について

##### (1) 厚生補導施設の設置状況について

主な厚生補導施設の設置状況は以下のとおりである(表12)。その他の施設としては、合宿所、スポーツ施設(トレーニングルーム、プール等)、自習室、国際交流施設(ラウンジ等)、パソコンルームなどが挙げられた。





## 5. 特色ある取り組み・課題について

### (1) 特色ある取り組みについて

正課外活動や学生表彰、施設に関する特色ある取り組みや強化・充実している取り組みは次のとおりである。

<p>・学生主体の運営など</p>	<p>学生が主体となり、学生生活の向上を目的として、提言等を行っていく「学生生活向上会議」を設立。(島根県立大学) 特に、クラブ活動に参加していない学生を集め、学生用「情報誌」を制作している。学生が企画し学内の情報や、問題点を載せている。(広島女学院大学)</p> <p>新生生のオリエンテーションキャンプのプログラムの準備や運営を手伝うリーダーを募集している。努力を惜まず、やる気のある学生を希望して、準備作業から運営までのすべてに関わっていく。(桜の聖母短期大学)</p> <p>学生会(自治会)主催による、納涼祭(7月)やクリスマス会(12月)を実施している。全学生へポスター等でPRや有志を集め、チケットの(1枚100円で販売し、売上金は全て当企画の運営資金(ゲーム等の賞品や料理他)に充てる)販売も行う。学生会役員が従来の学生会費と売上金を合わせて魅力ある企画を計画し、当日は、参加学生と一緒に行事を楽しんでいる。(愛知江南短期大学)</p> <p>キャンパスグッズの企画をするキャンパスグッズ製作プロジェクト。(京都文教大学)</p>	<p>新生・在学生及び教職員が親睦を深めるために、学生会が主体となる企画を立てて、新生歓迎会・スポーツ大会等を実施している。大学側は、その企画に対して、支援・協力をしている。(愛知新城大谷大学)</p> <p>月1回のペースで学生が企画する催し物(学長と意見交換会、四国アイランドリーグの石毛氏の招いての講演会など)を開催している。(香川大学フレンドリーナイトスポット)(香川大学)</p>
<p>合宿等イベントの実施</p>	<p>●アッセンブリーアワー(サービス・教養型)…各界で活躍中の方を招聘し、広い視野に立って考える機会を提供する講演会を主催。</p> <p>●What's on Thursdays! ふらっと Clap!(サービス・教養型、体験型)…会館ホール(大小)、多目的ホール等を使って毎週定期的に映画上映、音楽会、ワークショップ等を行う。映画上映・音楽会年間20回程度。ワークショップは30名程度を集め、半期10回×2程度のプログラムで開催。</p> <p>●函館キャンパ(教育型) …校祖新島が国禁を犯して脱出した地である函館を訪れ、校祖の情熱に思いを馳せながらグループワークやディスカッション等、他者との語らいの中で自己を見つめなおす。5泊6日(教職員4名、学生30名)</p> <p>●@プログラム(体験型)…教職員や仲間と共に自然と触れ合いながらチャレンジし、体験を通して課題を克服していく。‘富士登山’‘四万十川下り’‘無人島キャンプ’等、年間3回程度開催(教職員2名、学生30名程度)</p> <p>●アッセンブリーアワー学生企画(自立支援型)…学生発案の講演会や企画等を学生支援課がサポートに支援し実現に誘導する総合的プログラム。</p> <p>その他に、新生を対象にしたファーストイヤーキャンプや各種講習会(クラブサークル対象に山岳/水上安全/応急処置等)、各種啓発事業(留学・進学・キャリアデザイン関係座談会開催等)、スポーツフェスティバル(学生スタッフ30名、地域の方も含めた参加者4000人規模のイベント)等を開催。(同志社大学)</p>	<p>課外活動学生が先輩となって新生と1泊2日のキャンプを行う「新生ふれあいキャンプ」を実施(摂南大学)</p> <p>Mナビ(Meiji - Navigation)プログラムと題し、各種の学生参加型の企画を実施した(2005年度実施例「新生キャンプ in 山中湖村」「東京六大学野球の応援観戦」「おいしいお酒のたしなみ方」「体験・農業 in 富士吉田2005」「箱根駅伝予選会応援」「岡本喜八作品上映会」「ラグビー部との交流会」「中西学氏講演会」「箱根駅伝応援」)。(明治大学)</p>
<p>サークルへの支援・学生回</p>	<p>サークル援助金は大学予算のみで補助しているが、補助金の計算を前年度活動などをポイント化して、活動が活発化すれば自然と増額するシステムをとっている。(京都女子大学、京都女子大学短期大学部)</p>	<p>月に1度、クラブ委員会(学生主催)を開催し、各クラブ間の連携を図っている。また年に1度各クラブの主将・主務などを対象にリーダー育成を目的とした研修会(2泊3日)を行っている。(国際武道大学)</p> <p>本学では課外活動を活性化するために、毎年3月に2泊3日「リーダー研修会」を学外で実施している。費用はすべて大学。学友会のルール説明には始まり、各連盟による分科会、学生課からの資料説明等、学長をはじめ教職員も交えて熱心に討議を重ねている。(岐阜聖徳学園大学)</p>
<p>各種コンテストの実施</p>	<p>全学生(大学院は除く)を対象とした、学生論文コンテストを開催している。表彰者には、表彰状授与及び現金の贈呈を行っている。(鹿児島国際大学、鹿児島国際大学短期大学部)</p> <p>懸賞論文・エッセイコンテスト・ホームページコンテスト・スピーチコンテストを実施。学園祭時に表彰をしている。(淑徳大学)</p>	<p>留学生を対象とした日本語エッセイコンテストの実施。(フェリス女学院大学)</p> <p>「サギタウス・チャレンジ」…「チャレンジ部門」、「スピーチコンテスト部門」、「エッセイコンテスト部門」の3部門で構成しており、それぞれ、チャレンジ企画、英語・日本語のスピーチ、エッセイを学生から募集。優秀な企画や作品などに奨励金を交付している。(京都産業大学)</p> <p>●アカデミックコンテスト：学術文化奨励事業として行なっている。 具体的には、小説、エッセイ・評論、詩歌、映像の4部門へ申込された作品により審査・表彰する。尚、作品は同人誌として発刊する(大正大学)</p>
<p>スピーチコンテスト優勝者表彰</p>	<p>12月上旬に日本語・英語によるスピーチコンテストを実施。優勝者には賞状が授与されるほか、副賞として、物品、金券が提供される。(東京立正短期大学)</p>	<p>学生による8言語・手話によるスピーチコンテスト(全国規模)の実施(創価大学)</p> <p>1. オラトリカルコンテスト(英語弁論大会)…優勝者をカナダ英語研修に招待派遣 2. 学生プレゼンテーションコンテスト…キャンパスライブをパワーポイント等のソフトを使ってプレゼンを行う (徳島文理大学、徳島文理大学短期大学部)</p>
<p>1. 学内のミクロポコン大会を実施している。2. 学生の名札に関して、デザインコンテストを実施し、学生の投票によりデザインを決定している。(有明工業高等専門学校)</p>	<p>学生が使用するガイドブックの表紙デザインを学内公募し、懸賞金を出している。(学生生活ガイド、就職支援ガイド、学生相談リーフレット等)(山陽学園短期大学)</p>	<p>学生が使用するガイドブックの表紙デザインを学内公募し、懸賞金を出している。(学生生活ガイド、就職支援ガイド、学生相談リーフレット等)(山陽学園短期大学)</p>

<p>等企 画 実 公 施 募 へ 右 記 の ほ か 、 5 0 以 上 の 大 学</p>	<p>学生ベンチャーの育成を目的として、『大東文化大学企業アイデアコンテスト』を行っている。学生からの企画を募集し、審査を経て採用された場合は、商品や準備オフィスの無償貸与を行っている。(大東文化大学)</p>	<p>・大商大ビジネス・アイデアコンテスト [学生から企画(アイデア)を公募し、審査を経て受賞者には賞金と副賞として海外ビジネス研修旅行に招待し海外の企業建学や大学との交流を行う。] ・大学発ベンチャー企業[学生が行う起業活動に対し本学教職員、V-Net参加者からのアドバイス供与や「ベンチャー投資制度」を設けている。] ・起業インキュベーター「大商大アントレ・ラボ」(起業する学生をインキュベーターするラボ)を設け審査を経て入居できる。(大阪商業大学)</p>	<p>ビジネスプランコンテスト → プランの企画から事業化に向けた継続的な学びの場として支援。 書類選考及びプレゼンテーション選考委員会を通じた支援。入賞プランに対しては学外ビジネスプランコンテストへの参加を奨励し、様々な面から援助を行う。(日本福祉大学)</p>
<p>表 彰 イ ン 褒 奨 制 に よ る</p>	<p>学生表彰としてポイントプログラムを行っている。資格取得、サークル活動、ボランティア活動などに対しポイントを与え、ポイントがある一定の点数になると表彰する。(西武文理大学)</p>	<p>学業成績優秀者への報奨制度「狙え！HITポイント」を実施している。大学での学業成績@1個につき1ポイントを加え、当該年度ごとで15ポイント以上を獲得した学生を対象に、学生からの申請により3000円相当の図書券を提供し、学生の学習意欲の向上を図っている。(広島工業大学)</p>	<p>学内行事に参加した場合、ポイントを各団体に加算する。合計ポイントを金額に換算し部費と共に配付。(四国学院大学)</p>
<p>そ の 他</p>	<p>芸術文化支援制度/学生が芸術鑑賞を行う場合、その費用の一部を大学が負担する制度。今まで補助の対象となったものは、オペラ、ミュージカル、クラシックコンサート、落語、映画などがある。(山梨学院大学、山梨学院短期大学)</p> <p>全学生の誕生日に理事長直筆のバースデーカードを送付。プレゼントを贈呈している。(小樽短期大学)</p> <p>2004年7月より学生団体から大学の諸願、諸届の申請を書類ではなくWebシステムで行っている。このシステム化により、インターネットに接続できる環境であれば、学生団体は学生部の窓口時間にとらわれず、大学のコンピュータ実習室や自宅、外出先等から24時間申請が可能となった。学生部の決裁処理ならびに学生団体への申請結果通知もWebシステムで行う。(明治学院大学)</p>		

## (2) 課題となっていることについて

正課外活動や学生表彰、施設に関して課題となっていることは次のとおりである(校名記載のないものは複数回答分)。

### [正課外活動]

- ・課外活動に対する補助金のための資金が不足していること。
- ・学生が既存団体を敬遠、新たに団体を立ち上げ、親しい者同士で横のつながりだけのグループを形成していること。
- ・「学外者参加サークルへの入部率増に伴う、学内限定サークルの活性化方策」(関東/私立大学)
- ・「活動内容が多様化し、実際の内容の把握がしにくくなっている。大学の枠を超えた活動が増え、他大生や社会人が関与するケースもあることから、学内外での事故が心配。また大学でのサークル活動は伝統的に学生の自己責任としていたが、近年大学の管理責任や顧問の責任が問われるケースが増えており、大学や顧問の責任に関する全国的な共通ルール化が望まれる。」(近畿/私立大学)
- ・「独法化により教員が労働基準法に拘束され、課外活動指導がしづらくなっている。」(近畿/国立高専)

### [学生表彰]

- ・学生表彰の基準、判定。
- ・「複数の表彰を行う場合、同基準(学業成績等)で判定するため、同一人物が重複表彰されることが多い。」(近畿/私立大学短期大学部)

### [施設、設備]

- ・サークルの部室・活動場所が不足していること。
- ・施設が老朽化していること。
- ・防音対策(音楽系サークルなど)。
- ・バリアフリー化の推進。
- ・「来年度より6年制を併設するため、学生数の増加に伴う施設の増築が急務となっている。」(関東/私立薬学系大学)

### [その他]

- ・「学生寄宿舎が全室個室になったこともあり、学生同士の交流が希薄になりがちで、ひきこもり等孤立感を感じる学生が増えている(ただしこれは学生寄宿舎に限らず、下宿生にも共通する課題といえる)。」(近畿/国立大学)